

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070502101		
法人名	有限会社 ジューム		
事業所名	なごみ 春ヶ丘		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区春ヶ丘5-1 (電話) 093-931-5961		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年3月24日	評価確定日	平成22年5月3日

## 【情報提供票より】(平成22年3月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	11 人	常勤 8人, 非常勤 3人, 常勤換算	6.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1階	~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 ~ 50,000 円	その他の経費	(水道光熱費) 500円/日	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	退去時に補修費を除き変換	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

### (4) 利用者の概要 (3月5日現在)

利用者人数	7 名	男性	0 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均	歳	最低	歳	最高

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	葵会 香川医院・敬天会 東和病院・松木整形外科病院・うりゅうデンタルクリニック
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して6年目を迎えている「グループホームなごみ春ヶ丘」は、閑静な住宅地の中にあり、民家を改造した2階建てのホームである。近くにスーパーや公園等もあり、普段と変わらない生活環境の中で、「ゆっくり明るく笑顔と共に太陽を楽しみ雨を楽しむなごみのくらし」の実現に向けて、日々取り組んでいる。このホームでは、開設時より大切に取り組んできた地域との連携が充実しており、入居者の社会生活の維持にもつながっている。災害時の相互の支援体制については、地域との一体的な対応手順を確立したり、また運営推進会議で地域の高齢者の課題について検討し、出来る限りの支援を行っている。今年度は7名から9名への定員変更や、それに伴う増築が行われ、これを機に改めて「なごみ春ヶ丘」としての役割を明確にし、理念を基に職員全員でサービスの向上に取り組もうとしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の自己評価及び評価結果を検討し、今年度より、医療連携加算の体制を整備している。また研修を兼ねて他事業所職員の受け入れを行い、職員にとっても良い刺激となっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成にあたっては、1年間の振り返りの機会と考え取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今年度より2ヶ月に1回の定期的開催に取り組んでいる。家族・民生委員・協力委員・老人会会長・地域住民・市担当職員等の出席により、多面的な意見や要望、アドバイスをすることで、事業所運営に活かしている。地域の高齢者の状況等についても課題として検討しており、ホームとして出来る限りのアドバイスや支援を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	入居時に、意見箱や苦情相談窓口については説明し、入居者が安心出来る暮らしを継続する権利があることを常に伝えている。運営推進会議や家族会において、家族と職員の意見交換の場を大切に、意見や要望があった場合には、迅速な対応を行い、サービスの向上につなげるよう取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所開設時より地域との関わりを大切に考え、入居者と共に地域行事に参加している。また地域の役員を務めたり、運営者や職員は地域活動にも積極的に参加している。そのことでお互いの連携を深め、入居者の社会生活支援だけでなく、地域の高齢者との交流の機会もあり、地域密着型サービスを実践している。災害時の相互の支援体制についても、地域と一体となった対応手順を決めており、福祉拠点としての役割を担いながら、充実した連携体制が築かれている。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた、独自の理念が作成されており、地域との関係性を大切にし、一人ひとりの入居者の社会性を活かせるよう取り組んでいる。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	入居者と共に過ごし、穏やかな安らぎのある自由な暮らしの実現を目指していくことが理念の遂行と考え、運営者や職員が一人ひとりの役割を持って日々の支援に取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	事業所開設時より地域との関わりを大切に考え、運営者や職員は地域活動に積極的に参加している。そのこととお互いの連携を深め、入居者の社会生活支援だけでなく、地域の高齢者との交流の機会もあり、地域密着型サービスを実践している。地域の役員を務めたり、地域活動や地域行事に入居者の方々と共に積極的に参加している。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価作成にあたっては、1年間の振り返りの機会と考え取り組んでいる。前回の評価結果をもとにして改善点を検討し、少しずつ取り組んでいる。自己評価作成にあたり、職員の積極的な参加と内容の充実を期待します。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	今年度より2ヶ月に1回の定期的開催に取り組んでいる。家族・民生委員・協力委員・老人会会長・地域住民・市担当職員等の出席により、多面的な意見や要望、アドバイスを得ることで、事業所運営に活かしている。地域の高齢者の状況等についても課題として検討しており、ホームとして出来る限りのアドバイスや支援を行っている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

なごみ 春ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	今年度は、事業所としての定員変更手続きや、それに伴う増改築についての助言や提案を受けており、多くの関わりがあった。また入居者の生活向上のために、積極的な連絡調整を行っている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、その支援の過程において学ぶことも多い。管理者は十分に理解しているが、職員は学ぶ機会が少ない。日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員全員の理解を深め、活用に向けての支援が行えるように、また家族や地域に向けての情報発信が行えるよう、内外の研修の機会を確保を期待します。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族の積極的な来訪を働きかけており、少しずつ機会が増えている。記録等を参考にしながら健康状態や生活状況を伝え、必要時には電話連絡等も随時行っている。また、「なごみたより」を3ヶ月に1回発行し、日々の生活状況と共に写真を添えて送っている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	入居時に、意見箱や苦情相談窓口については説明し、入居者が安心出来る暮らしを継続する権利があることを常に伝えている。運営推進会議や家族会において、家族と職員の意見交換の場を大切に、意見や要望があった場合には、迅速な対応を行い、サービスの向上につなげるよう取り組んでいる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	グループホーム単独での運営となり、異動が行われることはないが、やむを得ず離職等が発生した場合には、十分に引き継ぎを行い、入居者への影響が最小限となるよう配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別等による制限は行わないようにしている。運営者・管理者・職員が自由に意見交換が出来るように配慮しながら、笑顔で働けるよう雰囲気づくりを行っている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

なごみ 春ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権教育については多くのテーマがあるが、今年度は特に、身体拘束やプライバシーの尊重等の学習を職員全員で取り組んでいる。人権尊重はグループホームとして大切な課題で、今後も継続して啓発活動に取り組む予定としている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	新任職員に対しては、教育計画に沿って研修を実施している。入居者の個々のケアに関しては、定期的に学習・指導を行っている。外部研修では費用の支援や勤務調整を行い、出来るだけ参加するよう取り組んでいる。		職員の経験やスキルに応じた研修を、計画的に実施していけるよう取り組んで欲しい。職員の積極的な姿勢もあり、モチベーションが維持できるよう今後の充実に期待します。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	運営者や管理者は、日頃より他事業所との交流があり意見交換等行っている。今年度は初めて他事業所職員の研修を兼ねた受け入れを行い、そのことが職員への良い刺激となっている。今後も職員間交流や合同勉強会を企画し、相互の事業所の質の向上に向けて取り組む予定としている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居相談時には、本人・家族との面接を重ね、主治医や関係者にも連絡しながら現状を把握している。可能な限り見学をしていただき、事業所の雰囲気等を感じてもらい、納得してサービスの開始ができるよう配慮している。定員増に伴い、体験入居等も視野に入れている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者・職員が、お互いに笑顔で過ごせるよう、思いやりと年長者に対する尊敬の心を持ち、入居者一人ひとりの趣味や特技、生まれ育った時代の話が様々な学びになり、日々の生活の中で活かされている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

なごみ 春ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりがその人らしい生活が送れるように、日々の会話やふれあい、家族とのコミュニケーションの中で、要望や意向を伺い計画に活かせるようにしている。</p>		<p>意思を十分に伝えることができない方や困難な方の、思いや意向の把握は、職員の重要な支援の一つであり、常日頃から声かけや見守りで得た情報を具体的に記録し、職員間で共有できるよう取り組んで欲しい。また個別の介護計画作成へとつなげて欲しい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントをもとに、家族との話し合いや、医療関係者の意見を参考にし、職員間で協議しながら本人本位の介護計画作成となるよう努めている。今後のアセスメントの充実を、計画作成に反映させることにより、個別支援の充実へとつなげて欲しい。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月の定期的なケア会議と、6ヶ月ごとの担当者会議で、計画の見直しの必要性を検討している。また、見直しの期間に関係なく状況の変化があれば、家族に細かく説明し、医療関係者とも相談しながらプランの見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の状況により、通院介助に柔軟に対応している。また入院時には少しでも不安を取り除くよう訪問を重ね、医療関係者や家族との連携により、早期退院に向けた支援を行っている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族からかかりつけ医の希望がない場合は、定期的に往診のある協力医療機関をかかりつけ医としている。歯科は週1回、内科は月3回、随時の認知症専門医受診と、日頃の健康管理や24時間体制の医療支援等を行っている。</p>		

なごみ 春ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	今年度より、医療連携加算体制を整え、「看取り」についての指針を示し同意を得ている。重度化や終末期の支援について、家族や職員、医療関係者との間で繰り返し話し合いながら、具体的な方針を共有できるよう、今後も継続して取り組んで欲しい。		医療処置の必要な方でも、できる限り受け入れを行いながら、医療関係者との連携により、その人らしい暮らしの継続を支援している。できるだけ早い段階から家族との話し合いを重ね、重度化や終末期に向けた具体的な方針を共有していくことが望まれる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	プライバシーへの配慮は、入居者一人ひとりの尊厳と権利を守る基本と考え、言葉かけや対応には常に配慮するよう心掛けている。記録等、個人情報についても取り扱いに配慮している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ホームとしての一日の流れはあるが、本人の意向や体調を考慮しながら支援している。特に重度の方へは、その人の生活のリズムを大切にしながら、寝たきりにならないよう声かけや、他の入居者との交流の機会を大切にしている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食材は町内の商店からの納入や、近隣のスーパーにも入居者とともに買い物に出掛けている。食事は一日の生活活動の大切な部分であり、個々に応じた力を発揮してもらっている。職員も同じ食卓を囲み、楽しみながら食事している。おやつは市販の物でも一工夫して提供している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的には週3回の入浴日を設定しており、体調や気分にあわせて、無理強いとならないよう柔軟に対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

なごみ 春ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	一日の生活が単調にならず笑顔で過ごせるよう、入居者全員で歌やゲームといった共通の楽しみの時間と、個人での楽しみや趣味の時間を支援している。生活の中での役割は、部屋の掃除や洗濯物の整理などに力を発揮してもらっている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	ホームの庭に出てみたり、「小春」と「なごみ」(ミニチュアダックス)とともに、町内の公園まで散歩に出かけたり、通院時の行き帰りの道のりを楽しんでいる。家族との外出も積極的に支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	開設時より鍵を掛けないケアを実践しており、気候が良くなると日中は玄関を開放し、風通しを良くしている。開設以来、ずっと守っていることのひとつである。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	災害対策として年2回、避難訓練計画に沿っての訓練を実施している。消防署・地域住民との連携により、事業所と地域が一体となった災害対応手順を決めている。設備面では増改築にあわせて、自動災害報知機や通報装置も設置する事になっている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	個別の状況に応じた調理法で、全量摂取出来るように工夫している。栄養管理が必要な場合は、医師の指導を受けて作成している。水分量の確保と記録は適確に行っており、体調変化の目安にもなっている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

なごみ 春ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	民家を改造して運営されており、家庭的な雰囲気がある。1階は広い庭、2階はバルコニーへと自由に出入りでき、一日の変化や季節の変化を感じることができる。定員増加に伴い増築工事が行われる。		
		共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室は間取りが異なり、様々なタイプの部屋があり、1階が2室、2階が5室となっている。自宅から持ち込まれた馴染みの家具等を自由に配置し、窓の外には趣味の植木や花が置かれている部屋もあり、暮らしを楽しむ様子が伝わる。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			